



テレマカシー

vol. **21**
2009.7.20発行

テレマカシーとは？

Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵なお言葉を使わせていただきました。



暑中お見舞い 申し上げます

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦

◀八重山のハイビスカス
(2面に探訪記掲載)

皆様、いかがお過ごしですか

「忙しい人ほど、休みを取る必要がある」
人生の先達から、助言をいただきました
風邪の少ない時期を選び、休診を掲示し
留守を頼んで、思い切って外出しました

行きたかったところを訪れました
行けないと思っていたところでした
休みを取ると、心がおだやかになり
人にやさしく接することができました

2泊3日で、いのちの洗濯ができます
皆さんもお出かけになりませんか？



市障がい福祉課の川名子課長から創作毛筆画をいただく



久留米の福田清一先生から届いた蘭



いよいよ開始(うりずん中川と三上)



うりずんボランティアでお世話になっている早川さん

夢がかないました うりずん一周年に感謝!

去る5月、うりずん1周年記念事業「ゆめかなえ隊」が、無事終了いたしました。ご利用者とご家族、地域のケアチームの皆さん、行政関係の皆さん、そしてボランティアの皆さん、本当にお世話になりありがとうございました。人形劇のつぼみ座さんにも感謝です。スナップ写真の一部をご紹介しますのでご覧ください。

今回の記念事業は、うりずんのスタッフの発案のもと、クリニックのスタッフも力をあわせて運営しました。多くの方に支えられて今があるということを改めて感じます。今後ともよろしく願い申し上げます。



第2部の報告会の様子



つぼみ座さんの人形劇にみんな見入りました



つぼみ座さんの手話ソング



ももかさんを横目で見るとかひろくん



受付の花二輪(当院事務の小俣と高橋)



受付はお任せ!(当院事務の丑久保と高橋)



たけるくんを囲んで



なつみさんとご両親



ゆめかなえ隊 全員集合!

八重山探訪

ーいのちの継承ー



沖縄本島からさらに南西へ400km行くと、石垣島を中心とする八重山群島がある。さんご礁に囲まれた島々を訪れると、いのちを育む島人の営みがあった。



▲黒島の牛
◀黒島の海岸
砂はすべてサンゴ

石垣島の川平(かびら)湾▶



▲竹富島の民家。円内は屋根の上のシーサー



❖ 子どもの誕生を祝う ❖

石垣島で夏子さん(仮名)という女性にお世話になった。唐人墓や川平湾などを案内していただいたあと、ある宴のお誘いを受けた。夏子さんの孫が1歳になるお祝いの会があるので来ないかということだった。地元の様子をみる貴重な機会なので、お言葉に甘えることにした。

自宅に何うと、ゆうに20名を超える家族、親戚の皆さんが集まっていた。飛行機に乗って沖縄本島や離島からも親戚の方がみえていた。かつて、沖縄では子どもがよく亡くなった。子どもは宝であるがか弱い。そこで1か月無事に生き抜くとお祝いをし、1歳を迎えたら親戚を招いて盛大な宴を開くのだ。

まず、1歳になった女の子の将来を占う儀式があった。机の上に、ノートやものさし、鉛筆にお金と、さまざまなものがおかれ、その子が何を手にするかで将来の職業を占うのである。皆が見守る中、女の子は硬貨を握り、拍手をあげた。将来は金融関係だろうか。大きなもちを子どもに背負わせる儀式もあった。これは栃木県にもある風習だ。

その後、宴会が始まった。皆さん、よく食べてよく飲む。三線にあわせて踊る人もいた。はじめて参加したものにも、快く接して下さることに感激した。1歳の誕生を多くの人々が心から喜び、お互いの交流も深めるのである。その子どもに記憶は残らなくても、その場にいた年長の子や親たちは自分が祝福されたときを想うだろう。子どもを大切にすることを感じた。

❖ 骨を洗う ❖

夏子さんから八重山に伝わる洗骨の風習を聞いた。亡き骸の骨を洗うのであるが、とても興味深かったので紹介する。

ある年、夏子さんの祖母が波照間島で亡くなった。子や孫やひ孫たちに看取られながらの大往生だった。亡き骸は手作りの棺に入れられて土葬された。

7年後、洗骨のために島の内外から家族や親戚が集まった。夏子さんは皆と一緒に墓に向かった。親戚の人々が墓を開け、棺を取り出した。ふたが開けられ、夏子さんは7年ぶりに祖母に直面した。着物は化学繊維だったためか、半分以上残っていた。亡き骸はミイラ化しており、皮膚が骨にへばりついていて、お骨は人々の手で皮がはぎとられ、きれいに水洗いされた。きれいになった骨は新しい骨壺に入れられ、墓に納められた。その場では、誰もが普通の風景として受け入れていた。

夏子さんはその後、波照間島で義父を介護して看取り、やはり7年後の洗骨にも立ち会っている。最初に洗骨に立ち会ったそのときは、怖さを忘れてその儀式にとき込んでいたが、夜になってその光景が思い出されて眠れなかったという。

波照間島では、洗骨はおおよそ7~8年後に行われる。今の世の中、土葬された後、墓を開けて先祖の骨を洗うということはどこでもできるわけではない。波照間島に残る洗骨の風習。そこには、いのちの尊さを伝える強烈なメッセージが込められている。

*

子どもの成長を大勢の人が祝う宴、先祖の骨を子孫が洗う洗骨の風習。八重山には、いのちを継承する文化がある。夏子さんははじめお世話になった皆さんに感謝する。



◀三線の名曲「安里屋ユンタ」ゆかりの地にて(竹富島)

うりずん日記

うりずん サービス管理責任者
看護師 三上綾子

昨年6月にうりずんが開所し、いつかはうりずんの利用者としてご家族が集うことの出来るイベントの開催をしたいという思いを胸に抱きながら、無我夢中でお預かりを受け入れ、あっ！という間に1年が過ぎ去りました。

去る5月16日に一足早く、うりずん1周年記念事業「ゆめかなえ隊」を開催することができましたのも、皆様からの温かいご支援のおかげと感謝いたしております。うりずんは、2年目に入り、新たに取り組むべき課題に向けてスタッフ一同さらなる努力をしておりますので、今後ともご支援よろしくお願ひ申し上げます。

さて、最近のうりずんの利用者のご家族の様子について、お伝えいたします。うりずんを利用している方のほとん

▶ あらあら泣かないで
(さわさんを抱くあかねさん・なつみさん)



どは、ご家族の介護力だけで在宅生活を送っています。そのようなご家族には、相談機関のコーディネーターの介在もありません。うりずんでは、その方の成長や生活に合わせて各種の福祉サービスの紹介や相談機関への橋渡しを、必要に応じてさせていただいております。

また、障害福祉サービスの利用を極力控えていた方々が、うりずんを通して他の利用者や家族の様子を見たり聞いたりすることにより、少しずつ利用してみようかな～という思いに駆られる方が増えています。まさに、百聞は一見にしかずですね。意を決して、恐る恐る未知なる世界に足を踏み入れてみたけれど、「な～んだ。もっと早くから利用すればよかった～」なんて言うお話しも耳にします。そのようなお話を耳にした時、利用者同士の刺激の他にもご家族同士の情報交換の場として、うりずんの空間はお役に立つことができるんだと嬉しく思います。

ちなみに、その障害福祉サービスとは、相談支援センターで担当相談員に依頼する、居宅介護事業所（身体介護や移動支援）と利用契約を結び、短期入所を利用してみるなどです。うりずんでは、新しく各種福祉サービスを利用し始めた利用者のご家族には、引き続き関係事業所や相談機関との連携および協力を継続しています。



▲どんな音が出るかな (さわさん)



◀作品を持つゆうきさん

●2009年4月～6月のご利用状況

区分	4月	5月	6月	合計
A	10	8	7	25
B	6	7	12	25
計	16	15	19	50

* 区分A………人工呼吸器装着の方
* 区分B………人工呼吸器を必要としない方
* いずれも延べご利用人数です

●2009年4月～6月のご来所状況

	1月	2月	3月	合計
見学者	6	19	15	40
ボランティア	0	0	0	0
計	6	19	15	40

* ボランティアは延べ人数です

●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	3名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	7名
合計人数	10名
契約準備中の方 区分A	0名
契約準備中の方 区分B	0名
契約準備中の方の合計人数	0名

* 登録ご利用者の年齢………1歳～16歳

●2009年4月～6月の寄付関係

ご寄付	2件 (1周年記念事業 15件)
ご贈答品	2件 (1周年記念事業 7件)



▲ゆいさん完成品にうっとり



在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク 群馬会議のお知らせ

2009年9月20日～21日に群馬県前橋市で開催される全国規模の在宅ケアの集まりです。学会というよりは、多職種が協働して取り組む在宅ケアの集いです。

その中で今回、小児の在宅ケアについてのセッションがあります。

◆**テーマ**：医療的ケアが必要な子どもの地域生活を支援する！

◆**日時**：2009年9月21日 13:15～14:45

◆**シンポジスト**：

- ・訪問看護ステーションほのか 管理者 梶原厚子さん(愛媛県)
- ・北信圏域障害者総合相談支援センター
コーディネーター 福岡 寿さん(長野県)

《指定発言》

- ・聖路加国際病院
副院長(小児総合医療センター長) 細谷亮太さん(東京都)
- ・コーディネーター 高橋昭彦

◆**内容**：

経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的なケアが必要な子どもには、保育や就学の際、または福祉サービス利用にはさまざまな壁がある。医療と福祉の狭間で、地域で暮らす子どもと親に支援策はなかなか届かない。そこで松山市で約60人の小児の訪問看護を行い必要な支援を行う梶原厚子さんと、長野県北信圏域で「電話一本で人が集まる支援チーム」づくりを発信する福岡寿さんの講演と、子どもの在宅医療の草分けである聖路加国際病院の細谷亮太さんの指定発言を通じて、医療モデルではなく、生活モデルとして子どもの地域生活を支援するマインドを学ぶ。

◆**その他**：

また、同じ日のお昼には細谷亮太さんの講演「子どもの在宅ホスピス」があり、午前中にある実践交流会〔障がい児・者〕では、高橋とうりずんの三上綾子看護師が発表をいたします。

*

●群馬会議の参加には参加費が必要です。詳細は「在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク 群馬会議」のホームページへ <http://gunma2009.home-care.ne.jp/>

わっどわ〜く

土佐の高知の〜♪
豪快、わら焼きのたたき!

7月に高知で開かれた日本ホスピス・在宅ケア研究会に行ってきました。市民と専門職が一緒になってホスピスケアを考えるアットホームな集いです。研究会初日の夕方からは、桂浜に移動しての懇親会でした。坂本龍馬の立像のある桂浜に、特設の舞台がつけられ、太平洋を見ながらの宴会という豪快さです。到着すると時間前なのにすでに宴会が始まっていた。高知では、着いた人から飲み始めるのが普通ようです。

圧巻は、本場の鰹のたたき。稲わらを燃やし、その炎で節ごとの生鰹の表面を焼くのです。薬味とたれを付けていただくと、香ばしい香りが口いっぱい広がります。

高知市内には「ひろめ市場」という、実に楽しい飲み食いどころがあります。そこでは、わら焼きのたたき、珍味ウツボのたたき、川エビのから揚げなどを食べさせる店がずらりと並び、屋間から多くの人でにぎわいます。わら焼きのたたきは、スーパーのたたきとは次元が違います。高知に行く機会があればぜひお試しください。

▲昼も夜もにぎわう「ひろめ市場」 来年の同研究会は、鳥取市で開かれます。



▲桂浜で実演！
ワラ焼きの鰹のたたき



▲焼きたてをいただきます！



テレマカシー20号へ
寄せられた感想から

●うりずん日記の子どもたちの写真に思わずほえんでしまいました。うりずんは、預けられる子どもたちにとっても、そのご家族に対しても、かけがえのない時間を提供しているのだと思います。皆さんのことを心から応援しています！

(宇都宮市 上田由美子さん)

●親族に末期がんを抱えております。大学病院では治療法がないと説明されました。近所の病院への紹介状をいただいて退院して来ましたが、老々介護で諸々を考えますと自宅での生活は不安です。地域にターミナルケアネットワークが充実されることを切に願っています。テレマカシー20号に寄せられた坂本愛さん頑張ってください。

(宇都宮市 Fさん)

●もう20号にもなるのですね、特に今号は色彩豊かでビックリしました。自然が豊かだと気持ちがゆったりしますね。都内でも今、新緑とつつじの赤・ピンクが映えて爽やかです。私は、週に1度くらい、千代田区の駿河台→竹橋→大手町→丸の内→東京駅へ歩くのですが、最初はお堀の柳が芽吹き桜へと移っていきます。皇居のまわりは手入れが行き届き、さくらのときはお城とさくらをしみじみ眺め、この景色を守るためにも、平和でなければと思いました。(東京都 飯野敏子さん)

*

♡うりずんにご寄付を下された皆さん、テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_)_>

♡ユニセフ募金、とちぎVネットボランティア緊急支援募金ありがとうございました。

ご支援いただいた募金は、皆様のお気持ちとともに、7月10日付で日本ユニセフ協会へ30,624円、とちぎボランティアネットワークへ29,999円送金いたしました。ご協力ありがとうございました。<(_)_>

「ひばりクリニック」のご案内

● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休診)	○	○	(休診)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問	訪問診療	訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
URL http://hibari-clinic.com/



栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。

- JR宇都宮駅から「ろまんちっく村」バス約35分
- お車で 東北自動車道 宇都宮ICより5分 宇都宮ろまんちっく村 入口向かい側

●この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。